

八月十五日

稲宮 健一

先月は休会、月遅れの八月十五日の話です。宇宙開発の部門に配属になった一九七五年頃、米国から宇宙技術を導入する国の方針に従って、ロサンジェルズにある提携先のTRW社に出張した。この会社は宇宙・防衛の最先端を誇る会社である。当時この会社と一緒に、国産のロケットを開発する構想があった。派遣されたメンバーは後々日米間の技術リエゾンの役割のためだった。しかし、この構想は実を結ばなかった。

TRW社側にMITの博士である、日系三世のN氏がいた。彼の祖父は戦前、加州で財をなしたが、戦争で総てを失った。N氏は高校まで日本で育ち、その後MITを出た技術者だ。N氏から声が掛かり、ある人から一緒に夕食に誘われたとのこと。イタリア料理のレストランに一緒にいった。そこは少し照明を落としたハイクラスの雰囲気の中、現れた歌手は声量豊かにカンツォーネを店全体に響かせた。招待主はインドネシア系の米国人で、奥さんはオランダ系の白人。当時まだ、米国出張の始めの頃だったので、私を招待してくれた背景など英語で聞くのもままならなかった。後から思うと、戦争中日本の占領の後、インドネシアは独立を達成した。少なからず日本が寄与したことがあったのだと気付いた。

それから大分たってから、フォードと一緒に静止衛星を開発した頃、フロリダのケープカナベラル射場を日米のチームで視察した。射場には打ち上の実績あるロケットが至る所に飾ってあった。オーマイベイベー、俺はあの開発に参加したなど、我々が内之浦に行った時の様であった。このチームが本拠地のパロアルトに帰ってから、メンバーの一人から自宅で夕食を一緒にしたいと誘われた。家に入ると、ユダヤ式祭壇を説明してくれた。例のダビデの六角形のシンボル、燭台、など、先月の日経に解説欄に世界的な金融の権威が記事を書いた。その最後に私は子供の頃、杉原ビサで日本から米国に渡ったと記していた。彼もそんな背景があったかもしれない。

(二〇二五・九・一八)

N氏(西川さん)には当会で米国の教育事情などの講演をして頂いた。